

『髪の焦げる謎』

みなさんは、このような経験をしたことはありますか？ お風呂あがりや朝起きた時にドライヤーで髪を乾かしている時に、つい同じ部分ばかり乾かしてしまうこと。私自身もよくあります。朝は眠くて、夜は夜でテレビなどを見ながらつい見入ってしまったります。

ところで、髪の毛の同じ部分ばかりに熱が加わり続けるとどうなると思いますか？ 「たかがドライヤーの温風でしょ？」などと思っている人もいるかもしれませんが、しかし、その温風のような温度でも、やり過ぎは髪に大きなダメージを与えます。

髪の毛は俗に「死んだ細胞」とも呼ばれますが、実際はタンパク質で構成されています。また髪の毛の表面はキューティクルという組成でおおわれていて、このキューティクルのおかげで熱や紫外線から髪が守られているのです。つまり、髪が傷んでいるということは、キューティクルの組成が何かの原因によって破壊されているということを示します。もちろん、ドライヤー程度の温風でも、当て続けさえすればキューティクルは壊れてしまいます。キューティクルが破壊されると髪の毛の構成源であるタンパク質がむき出しになり、さらに熱が加わり続けると……みなさんはもうお分かりですね。そうです、最終的には燃えますね。ドライヤーの風となると燃えるまでにはなりませんか、焦げてあの独特の臭いが出ます。ただ物が焦げた時とは違う、あの鼻をつく嫌な臭い。

なぜ髪が燃えると独特の臭いが出るのでしょうか？ 前の文章でタンパク質で髪は構成されていると述べましたが、主にシステインやメチオニンという物質で構成されています。構造式を見てみると、この2つは硫黄(S)をもっているという特徴があります。硫黄泉などによく含まれていますが、硫黄泉もまた特徴的な臭いですね。つまり、この硫黄が熱を加えることにより焦げ、それとともにあの独特の臭いをはなつということです。

気を付けてさえいれば済むものの、ついっかりでやってしまいかちなことです。私自身もう何回やってしまったことか……。みなさんも気を付けてください、一瞬の気のゆるみか重大なミスを招いてしまうかもしれませんよ。

よく書けています。共感できずにはおもしろいです。ただ、タイトルは「髪が焦げること自体は謎ではないので、焦げたときのおいしさについて絞った方がいいかもしれません。読みやすく書けていると思いますが、ときどきポエト的なような言葉（「逝く」とか）がでてきます。エッセイですから、もう少しゆるやかな言葉のほうがいいでしょう。